



各位

2022年6月7日
株式会社 CARTA COMMUNICATIONS

CCI、「Data Dig」における新たなオンオフ統合支援サービスとして
SMNが提供するテレビ視聴データの活用を開始

株式会社CARTA HOLDINGSのグループ会社である株式会社CARTA COMMUNICATIONS（本社：東京都中央区、代表取締役社長：目黒 拓、以下CCI）は、クッキーレスに対応した企業のデジタルマーケティング支援サービス「Data Dig」において、新たにセカンドパーティデータを活用したサービスの一つとして、SMN株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：井宮 大輔、以下SMN）の提供する「Connected TV Data Bridge DMP」（以下TVBridge DMP）を活用した配信・分析サービスを開始します。



SMNは、2020年9月より、国内大手テレビメーカー複数社がユーザーから広告用途への利用を許諾され取得している約780万台（2022年4月時点）のテレビ視聴データと、SMNの保有するデジタルメディアの接触データを専用のDMP「TVBridge DMP」に集約し、プライバシーにも考慮した形で様々なメディアへ適切に広告配信するサービスを提供しています。

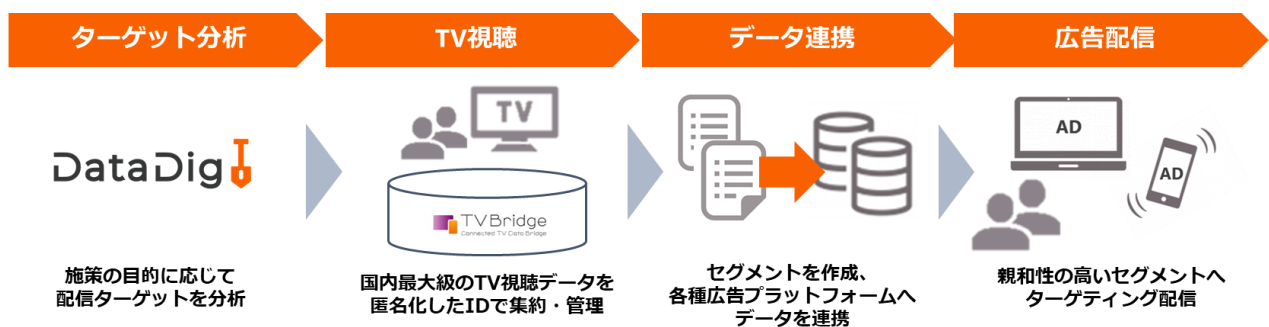
CCIのデータマーケティングサービス「Data Dig」は、SMNが提供する「TVBridge DMP」を活用し、オンライン、オフラインを横断した統合的なマーケティング施策を支援してまいります。

主なサービスは下記となります。

■TV 視聴データを活用した各メディアへの広告配信

テレビ番組やCMの視聴データを「TVBridge DMP」に集約し、TV視聴ログデータを基にユーザーの視聴傾向の特徴を活かした配信セグメントの作成を行い、各種広告プラットフォームへ広告配信を行うことができます。

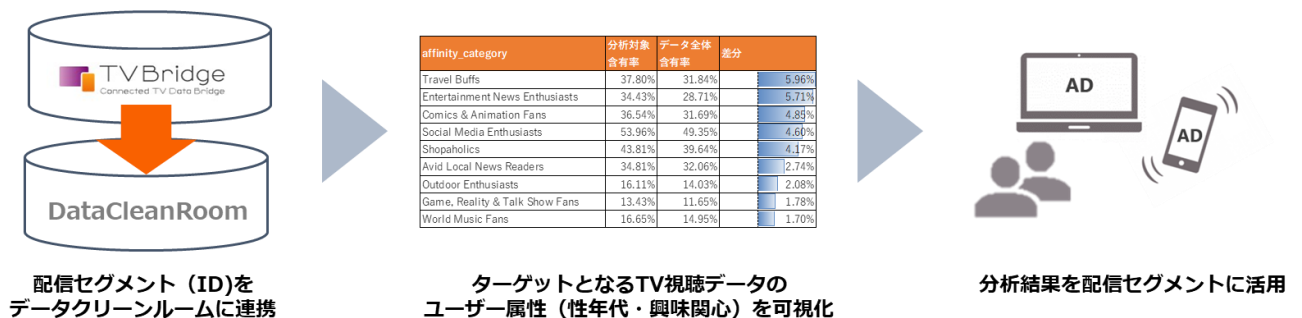
特定の番組ジャンル・CM接触ユーザーに向けた広告配信は、より親和性の高いユーザーの興味関心促進に繋がります。また、TV視聴傾向の少ないユーザーに向けた広告配信は、オンライン上でのリーチ補完に繋げる事が可能となります。このように施策の目的に応じて、ユーザーの視聴傾向からセグメントを作成する事で、よりの確なターゲットに向けた効率的な広告配信を実現します。



■オンライン・オフラインメディア横断の統合分析

CCIで利用可能なメガプラットフォーマーが提供する個人情報と分離されたデータクリーンルーム環境と連携することで、TV視聴ログデータからターゲットセグメントのデモグラフィックや興味関心などのユーザー属性を可視化し、オンラインとオフラインメディアを横断した統合分析が可能となります。

◆データクリーンルームを活用したユーザー属性分析



今後もCCIは、「Data Dig」で提供するソリューションの拡充・向上に努めるとともに、クッキーレスに対応したデジタルコミュニケーション推進をサポートし、企業の更なる発展に貢献してまいります。



【SMN 株式会社について】

2000年3月に設立。ソニーグループで培った技術力をベースに、マーケティングテクノロジー事業を展開しています。「技術力による、顧客のマーケティング課題の解決」を実現するため、ビッグデータ処理と人工知能のテクノロジーを連携し進化を続けています。

現在、DSP「Logicad」、マーケティングAIプラットフォーム「VALIS-Cockpit」など様々なソリューションを提供することで、マーケティングに関する様々な課題解決を実現しています。

【Data Dig について】

CCI が提供する、クッキーレスに対応したデジタルコミュニケーション戦略の推進を支援するためのデータマーケティングサービスです。データ分析、データ計測技術の導入支援・データマネジメント、その後のマーケティング戦略立案まで、企業のデータマーケティングにおける課題解決に向けて、全面的なサポートを提供しています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 CARTA COMMUNICATIONS

メディアソリューション・ディビジョン 三代、森川

E-mail: data-dig@cci.co.jp

【報道関係者お問い合わせ先】

株式会社 CARTA HOLDINGS 広報・IR 室

<https://cartaholdings.co.jp/contact-pr/>